

いずみ絆プロジェクト 活動報告

聖和学園短期大学

保育学科

飯島ゼミ
中島ゼミ

親子ふれあいスマイルプロジェクト

<事業目的 1>

子育て家庭の孤立や母親の育児不安の増大といった社会的問題が深刻となっている事態を受け、保育学生の保育者となるための保育技術を活かし、地域の子育て家庭が気軽に参加できる遊びの広場を提供することで、保護者と子どもの肯定的な関わりを促進することであった。

親子ふれあいスマイルプロジェクト

＜事業目的 2＞

地域との連携による地域全体の活性化を目指すことであった。これまで本学では短期大学内の施設で子育て支援活動を実施してきた。しかし、この「親子スマイルプロジェクト」では児童センター、市民センターなど地域の施設と協働することで、日常的な支援のコミュニティ・ネットワークを構築することを目的としていた。

活動実施状況

活動年月日	活動実施内容
6月21日	プロジェクト準備 児童文化財の作成①
6月28日	プロジェクト準備 児童文化財の作成②
7月13日	南中山児童センター 所長先生の講話受講【1回目】 「南中山エリアの地域的課題と児童センターにおける子育て支援事業について」
7月19日	いず☆ちゅう祭 親子制作の準備
7月20日	南中山児童センター 所長先生の講話受講【2回目】 「南中山エリアの地域的課題と児童センターにおける子育て支援事業について」
7月23日	いず☆ちゅう祭 親子ふれあい遊びコーナー
9月16日	中山フェスタ 親子制作準備
9月26日	福室希望園 子育て支援についての講話
10月4日	児童文化財の作成
10月11日	西多賀チェリー保育園 子育て支援担当保育者の講話
10月15日	中山フェスタ 親子ふれあい遊びコーナー
10月25日	児童センター子育て支援活動の準備
10月31日	南中山児童センター 子育て支援活動（乳幼児）
	北中山児童センター 子育て支援活動（小学生）
11月7日	南中山児童センター 子育て支援活動（乳幼児）
11月14日	北中山児童センター 子育て支援活動（小学生）
11月15日	反省会

南中山児童センター所長先生講話 受講

地域の子育て支援の現状理解



子育て支援センター担当保育士講話

保育園の子育て支援の問題と方法を学ぶ



いず☆ちゅう祭 子育て支援ブースでの実践



いず☆ちゅう祭 ペープサートの実践



いず☆ちゅう祭 パネルシアターの実践



いず☆ちゅう祭 大型絵本の読み聞かせ



いず☆ちゅう祭 紙皿コマの作り方



<事業の成果・効果>

1. いず☆ちゅう祭

①テントで実施したが、幼児から小学生まで111名が来場し喜ばれる。

②「孫に教えてあげたい」と祖父母も参加したことから世代間交流活動の可能性が示唆された。

南中山フェスタでの実践 (紙皿コマ作り)



南中山フェスタでの実践 (ペープサート)



南中山フェスタでの実践 (パネルシアター)



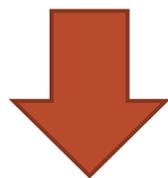
南中山フェスタでの実践 (万華鏡作り)



<事業の成果・効果>

2. 南中山フェスタ

保護者20名、子ども（幼児から児童）80名、
合計100名が来場し喜ばれる。



50組程度を想定していたため目的を大幅に上
回って達成した。

北中山児童センターでの実践 (児童クラブの子どもたちとの交流)



南中山児童センターでの実践



<事業の成果・効果>

3. 連携構築

児童センターでの子育て支援活動

- ①乳幼児の親子対象の子育て支援活動を2回実施した。
- ②当初予定になかった児童センターの小学生を対象とした遊びの広場を実施した。
- ③児童センターとの連携の広がりができた。

課題と今後の展望

①本年度は保護者から直接お話を聞くことができなかったため、想定した保護者ニーズへの対応に留まった。次回は、保護者ニーズの実際に応じた内容を考案したい。

②児童センターで実施する子育て支援の範疇は幼児に留まらず、小学生、中学生と児童・生徒まで広いことを活動を通じて改めて実感した。地域の問題解決、地域との連携を考える上で幅広い子ども観（児童福祉法の観点）から考える必要があると思われた。

学生の振り返りレポートより

- ・ 子育て支援の現状を把握し、その活動に参加する親子の参加率も学んでいく必要がある。一人で子育てを頑張っている保護者の存在を理解し、どのようなかかわりをもつことがよいか、今後ディスカッションの機会があると良い。
- ・ 学生としてチラシ（○○だより）を作成し、親子で出来る遊びや物づくりの仕方を地域全体に発行する。
- ・ 家庭では行うことが難しい活動を提供していく。例えば、演奏会では、最初に手作り楽器を製作し、その後本物の楽器を含めて合奏をする。家庭にはない、マットや跳び箱を使用し親子で一緒に運動をする。大きな紙に絵の具を使用してのびのび描く機会を設けるなど。